

こころる便り

第284号
令和5年11月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八十二
株式会社新宮運送グループ
代表/木南 一志
Kminami@singu.co.jp
電話 0791-75-1212



新宮運送ホームページ

数字ではなく

暑い夏が終わって、心地よい秋風よりも一氣に晩秋という感じがする今年の季節感です。体調不良にならないように、お互い注意してまいります。

鍵山相談役からいただいた本を一ヶ所にまとめて「鍵山文庫」をつくらうとしています。よくこれほどの数の本を届けていただいたとあらためて感謝するとともに、自分の学びの足らなさを感じています。最新のものは「なぜ豊岡は世界に注目されるのか」(集英社新書)元市長の中具宗治さんの書かれたものです。その中に大事なメッセージがあります。抜粋します。

IQや学力など、数値的に測ることができない能力を認知能力と言います。これに対し、数値で表すことのできない能力のことを非認知能力と言います。例えば、やり抜く力、自己をコントロールする力、他者と協同する力などです。OECD(経済協力開発機構)などの調査結果から、子供の生きる力を育むためには、非認知能力の向上が重要であることが分かっています。

幼児期から学童期が、非認知能力の育ちやすい旬の時期と言われています。そしてその向上には、演劇やダンスなどの自己表現型、アウトプット型の学習が有効だとされています。

学校の成績は良くても自分をコントロールできない人や権利ばかりを主張して社会を乱していく人が増えているのは、感じる力を育ててこなかったからではないかと思ってきました。数値化することのできない感受性やユーモアセンスなどを社会全体で育ててこなかったことが世の中を悪くしてきたのではないのでしょうか。結果として争いを生み出していくことにつながったのではないかと感じます。

想像力やコミュニケーション能力を伸ばすことで、この先どうなるか、相手がどう感じるかを見極めていくことができます。これを簡単に実感できるのは掃除です。綺麗になるという感覚を得ることができると、汚れていたらきれいにならなければならないという行動が身につきようになります。

昔の英国の貴族は美しいドレスに身を包んでいても、汚れたらサツと自らのハンカチで拭き取ってしまうという行動ができていたそうです。それを「一流」と呼んだと教えていただきました。

一流を身につけるには、身を低くして実行する掃除の習慣が一番です。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

尋常小學國史 上巻

第八天智天皇と藤原鎌足②

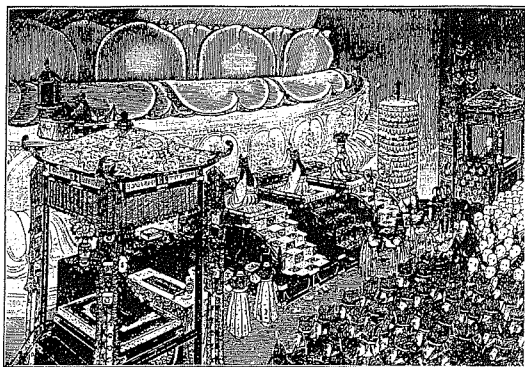
藤原鎌足の
大功
藤原氏の
始

中臣鎌足は、さきに蘇我氏をほろぼせしより、二十餘年の間朝廷に仕へて大功ありしかば、天皇は常に之を重んじたまへり。鎌足大病にかゝりし時、かたじけなくも天皇その家にみゆきして御みづから病を問ひたまひ、「何なりとも望むことあらば申すべし」と仰せたまへり。鎌足深く天皇の御恩に感じたまつり、もとよりおろかなる身に、何の望むことか候ふべきたゞ願はくは葬儀をてあつくせざらんことを」と申し上げたりとぞ。天皇はやがて鎌足に最も高き位を授け、又藤原といふ姓をたまへり。後の世に盛になれる藤原氏は實にこゝに始れるなり。鎌足は後に大和の談山神社にまつらる。

第九聖武天皇①

奈良時代の
奈良の最
盛なりし御

文武天皇の次に、第四十元明天皇御位に即きたまふ。紀元一千三百七十年和銅三年、天皇は都を大和の奈良にさだめたまへり。これまでは都はたいいてい御代ごとにかはる習はしなりしが、これより御七代七十餘年の間、おほむね奈良の都にましくたり。よりて此の間を奈良時代といふ。



聖武天皇大佛ををがみたまふ

奈良時代の中にて最も盛なりしは、第四十聖武天皇の御代なり。此の頃は唐との交通しげく、世の中大いに開けたりしかば、都も唐の風にならひてり。つばなるものとなり、宮殿などの建物は、壁を白く、柱を赤くぬり、屋根には瓦をふき、人々の風俗もすべてはなやか

つづく